

こもる

a2200626 濱野優子

背景と目的

「こもることの意味」
 他人とコミュニケーションをとり何かを考え、働く。ということは当たり前の行動ですがたまにそれらに対して疲れを感じます。そしてこもりたいと思います。
 なぜそこでこもりたいのか？精神的、肉体的に休みたいのなら睡眠をとれば良いのではないのか？こもることの意味は？

考えた結果、思考を巡らしコミュニケーションをとるためには逆に、睡眠とは別の意識的な「何もしないひとりの時間・他人と距離をおいた場所」が必要なのだな。という考えにたどりつきました。

こもることで他人と関わらない自分、他の何にも干渉されない自分になる。それは自分を見つめ、向き合うことにつながるのではないか。また実際にひとりだけの空間で何もしていないでいると自分はどうなるのか。

こもることに対する自分の考えの表現と実験的な意味を込めて実際に「こもる空間」を漆の技法を用いて制作しようと思いました。

原型制作方法

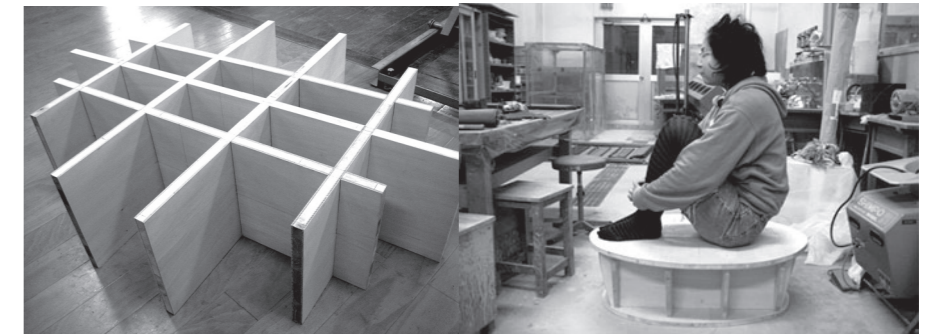
台座を木材で制作→その周りをレンガ状に切り出したスタイロフォームでかまぐらのように積んでいく→
 スタイロフォームを削り成形

デザインコンセプト

完全に「自分」だけの空間にすること
 こもったら何もできない空間にすること

制作工程

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1:スケッチ | 10:切り離し |
| 2:素材・サイズの決定 | 11:布着せ(内側1回目) |
| 3:土台の制作 | 12:目擦り(内側1回目) |
| 4:木固め(土台) | 13:布着せ(外側2回目) |
| 5:スタイロフォームの切り出し(レンガ状) | 14:目擦り(外側2回目) |
| 6:原型制作 | 15:下地付け |
| 7:コクソ(スタイロの表面を滑らかにするため) | 16:下地に加飾 |
| 8:布着せ(外側1回目) | 17:完成 |
| 9:目擦り(外側1回目) | |



台座の制作



スタイロフォームで肉付け ↑ 成形後



切り離した後(台座部分)



布着せ後(左側) : コクソ後(右側)

考察と感想

サイズの大きなものに取り組んだので思ったような形にスタイロフォームが削れなくて原型が完成するまで時間がかかりました。頭で考えているのと実際にやるのはギャップがあると実感しました。
 また、表面を起伏のある表現にしたので布着せが困難でした。布着せして漆を塗っていくうちにどんどん重量が増し、持ち上げるのが困難になりました。表面の表現で岩のようなものを大小織りまぜて削っていったのは動きが感じられて良かったと思っています。

制作途中に実際に自分でこもってみたところ、普通の状態(部屋にいたりとか)でひとりになる感覚とは全く違う感覚で、驚きました。何もできない。何も見えない。そんな状態になります。本当に頭で考えていることと実際に体験するのは違います。「動くために何も見えない状態が要る」という考えで制作してきましたが、これにこもっていると何か異なった考えが出てきそうだなと思いました。

今回、割と大きなサイズの造形物を制作してみて辛いこともありましたが充実していました。この閉鎖的な空間を作ることに對してもっと深く考え、異なったタイプのものを制作したいと思いました。